

熱帯林と私たちの暮らし(資料)

1. 熱帯林に関するクイズ

- 1) 地球で1年間のあいだになくなっている熱帯林の大きさは、だいたいどのくらいでしょうか。
A. 富山県の2/3くらい B. 北海道の2/3くらい C. 本州の2/3くらい
- 2) 日本が輸入する木材のうち、熱帯材はどのくらいでしょうか。
A. 約3% B. 約13% C. 約33%
- 3) 日本で使う木材のうち、紙の原料として使っているのはどのくらいでしょうか。
A. 約1% B. 約10% C. 約40%
- 4) 日本で使う木材のうち、家や家具として使っているのはどのくらいでしょうか。
A. 約1% B. 約10% C. 約40%

【答え】

- 1) C (1分間には甲子園球場6個分がなくなっているといわれています。)
- 2) B (12.9%で、アメリカやカナダからの米材について多い量です。)
- 3) C (紙の原料として新たに木から作るのは約40%といわれています。)
- 4) C (このほか、合板として輸入木材が使われています。)

参考：(財)地球・人間環境フォーラムHP (<http://www.gef.or.jp/>)
熱帯林行動ネットワーク(JATAN)HP (<http://www.jca.apc.org/jatan/>)
(財)古紙再生促進センターHP (<http://www.prpc.or.jp/>)

2. 熱帯林についてのいくつかの事実

1) 熱帯林は

- ・ 多様な生物が生息し、地球上の70%の生物種がいるとされ、「種」の宝庫とも呼ばれている。
- ・ そこに住む人たちの貴重な食料・薬物の供給源であり、生活の場となっている。
- ・ 地球の植物の1/2の量の植物が生育しており、そこから多量の酸素が送り出され、また二酸化炭素を吸収する役割も果たしているため、「地球の肺」とも呼ばれている。

2) 熱帯林が伐採されると

- ・ 熱帯林に住む人々の生活の場が失われる。
- ・ 生物の生息場所がなくなる。
- ・ 栄養のある表土が流出し、水を蓄える機能が衰えて洪水などがおこりやすくなる。
- ・ 二酸化炭素の吸収量が減るために、「地球の温暖化」が加速される。

3) 熱帯林と日本の関係は

- ・ 世界の中で、日本が熱帯材を一番多く輸入している。
- ・ 日本は熱帯材を、インドネシア・マレーシアなどから輸入している。
- ・ 日本は熱帯材を、以前はフィリピンから多く輸入していたが、フィリピンの木材資源の減少のため、現在はインドネシア・マレーシアに代わっている。
- ・ 日本の国土の約60%は森林である。
- ・ 日本で使う木材のうち国産のものは約20%である。
- ・ 日本人の紙の消費量は世界7位で、一人あたり年間約240kgを消費している。
- ・ 日本では、輸入した熱帯材を合板にして、使い捨てのコンクリートパネル（建設現場でコンクリートを固めるときに固定しておく型枠）として使用する場合も多い。
- ・ 熱帯林を伐採して、日本などに向けた商品作物（コーヒーやバナナなど）をつくるプランテーションも行われている。

3. [熱帯林に住む人からの訴え] (マレーシア・サラワクのムータングが、1992年の第47回国連総会で世界へむけて訴えたスピーチ)

(前略)

私はマレーシアのサラワクから来ました。サラワクはマレーシアの州で、ボルネオ島にあります。サラワクの面積はブラジルの2%にも達しませんが、世界の熱帯産木材の3分の2以上を現在生産しています。伐採の割合を現在の半分にしても、サラワクの原生林のすべては、2000年までに消滅してしまうでしょう。

伐採が進むと、その地域ではサゴヤシや籐や医療用植物は姿を消してしまいます。野生の豚の食料となる実をつける木が材木として伐採されると、野生の豚はいなくなってしまうのです。ということは、私たちが食べる肉もなくなってしまうということです。私たちの多くは現在飢えています。有毒な表皮を持つ木が切り倒されて、川に流れ込み、魚を全滅させてしまいます。汚染された土地の泥が川を汚し、それによって私たちは病気にかかり、飲料水を得られなくなっています。埋葬地に印をつけておいても、材木会社は平気でブルドーザーで埋葬地を押しつぶしてしまいます。私たちの気持ちなど何とも思っていないのです。何百という墓地がこうして破壊されてしまいました。そのことで抗議すると、彼らはわずかな額のお金を保証だといって渡そうとしますが、これは私たちにとって侮辱でしかありません。祖先の体とひきかえにお金を受け取るなんてことができるのでしょうか。

(中略)

材木の切り出しは私たちの雇用をつくり出しているのだと政府はいいます。しかし、この雇用は森がなくなると同時になくなってしまいます。10年もすれば仕事は全くなくなってしまうでしょう。それとともに私たちの命を何千年にわたって支えてきてくれた森もなくなってしまうのです。どうして私たちに仕事が必要なのでしょう。私たちの父や祖父は政府に仕事をくれと頼む必要などありませんでした。失業などというものはありませんでした。大地と森を糧にして生活していたのですから。生活は楽しく、余暇は十分あり、飢えることも困ることもありませんでした。

(中略)

ペナンやケラビットやそのほかのダヤックの人びとは森を家だと考えています。泥棒が自分の家に入ってくるのを見たら、自分の所有しているものを守ろうとすでしょう。私たちが長い間伐採業者に抗議してきたのも同じ理由からなのです。私たちの抗議が聞き入れてもらえず、材木切り出し用道路の封鎖に踏み切ったのも、そうした理由からなのです。1987年以来、平和的な抗議行動に参加したという理由で私の同胞が逮捕され、投獄されてきました。

(中略)

私たちの生命は企業が雇ったごろつきによって脅かされています。

(中略)

私たちは絶望的な状況にありながら、暴力を避けてきました。

(中略)

先住民の社会の富はお金や物にあるのではなく、共同体や伝統や特別の土地の一部であるという感覚、そういったものにあるのです。世界は単一の文化に向かってまっしぐらに進んでいます。私たちは立ち止まって、多様性の美しさについて考えてみなくてはなりません。

(後略)

岩波ブックレット NO. 350「先住民とともに生きる」ベス・リシャロン著より抜粋

人々や熱帯林の生き物の生活をこわしてしまうほどの多くの木が必要なだろうか。熱帯林を守るためにあなたができることを考えてみよう。

